

5 協働社会の推進

環境保全活動の連携

H17(基準年)	H26	H27	H28	H29	H32(目標)
まいづるクリーンキャンペーン参加者数					
市民の15人に1人	市民の9.8人に1人	市民の10人に1人	市民の9.5人に1人	市民の12人に1人	市民の8人に1人
達成度(%)	81.6	80.0	84.2	66.7	100

● 連携の仕組みづくり

【まいづるクリーンキャンペーン実行委員会】

「わたしたちのまちを、わたしたちの手できれいにしよう」を合言葉に、まいづるクリーンキャンペーン実行委員会の主催により、毎年7月に全市一斉の清掃活動「まいづるクリーンキャンペーン」が実施されています。平成29年度は132組6,851人の参加申し込みがあり、一斉清掃日当日には約21トンの散乱ごみが回収されました。



クリーンキャンペーン全市一斉清掃

市は、この活動を支援するため、ゴミ袋の支給や清掃後のごみ回収などを行っています。

同会では全市一斉清掃のほか、環境絵画の募集・表彰やビーチコーミングなどの環境美化啓発活動にも取り組んでいます。

【舞鶴の川と海を美しくする会】



河川の清掃活動

舞鶴の川と海を美しくするため、毎年6月と10月を美化強調月間と定め、関係機関と協力して全市的規模で河川や海岸などの清掃活動が実施されています。平成29年度は、のべ約13,900人の参加がありました。

市は、この活動を支援するため、ゴミ袋等の支給や清掃後のごみ回収などを行っています。同会では、清掃活動のほか、環境絵画の募集・表彰や自然観察などの環境啓発活動にも取り組んでいます。

【まいづる環境市民会議】

市民、事業者、市民団体等の参加・協働により、「第2期舞鶴市環境基本計画」の具体的な取り組みを中心となって推進するため活動しています。平成29年度末現在で、34団体・61個人が参加しており、環境基本計画の進捗管理を行うとともに、「地球温暖化防止」、「循環型社会」、及び「生物多様性」の3つのプロジェクトチームにより、環境保全活動に取り組んでいます。



まいづる環境フェスタ

平成29年度は、舞鶴市と協同で地球温暖化対策の国民運動「COOL CHOICE」を推進する旨の「COOL CHOICE 共同宣言」を行い、環境啓発イベント「まいづる環境フェスタ」の開催など啓発活動に取り組みました。

【各プロジェクトチームの活動内容】

①地球温暖化防止プロジェクトチーム



みどりのカーテンを活用した環境学習

地球温暖化の現状や将来予測、対策等の啓発や、家庭における省エネや再生可能エネルギーの普及啓発など、地球温暖化防止に向けて取り組んでいます。

▽環境フェスタ等で家庭の省エネ相談を実施（合計24人）。

▽みどりのカーテンの普及のため、市内の保育園、幼稚園や福祉施設など合計31施設にゴーヤの苗の配布を行ったほか、市民210人にゴーヤの苗の配布及び地球温暖化の講座を実施。また、市内小学

校3校で、みどりのカーテンの育成及び地球温暖化に関する環境学習を実施。

▽市内の小学校や高等学校で、地球温暖化をテーマとした環境学習を実施。

②循環型社会プロジェクトチーム

3Rや環境美化活動の企画・運営や啓発イベントの実施により、循環型社会の実現に向けて取り組んでいます。

▽ごみを減らす生活を考えるため子ども向けごみ減量啓発ワークショップ「買い物ゲーム」を通じて、ごみ減量の啓発を実施（市内小学校3校71人）。

▽ペットボトルのキャップを市内小学校14校や市役所・

西支所に設置したボックスで回収し、そのキャップ売却金を世界の子どもたちを守るためのワクチン購入費として寄付する活動を実施（1,690*。資源化、ポリオワクチン1,134人分寄付）。

▽不要になったおもちゃを持ち寄り交換するおもちゃ交換会「かえっこバザール」を5月（300人が参加）と11月（700人が参加）に開催し、リユースの啓発を実施。

▽環境フェスタにおいて、まいづるクリーンキャンペーン実行委員会と連携し、同時開催された「まいづる赤れんが地場産市場」のグルメブースと5号棟カフェでくり返し洗って使える「リユース食器」を使用してもらい、ごみ減量について啓発。



おもちゃ交換会かえっこバザール

③生物多様性プロジェクトチーム



自然観察会（夕潮台公園）

舞鶴の宝物である豊かな自然や動植物など、生態系や自然環境の保全に向けて取り組んでいます。

▽舞鶴に生息する動植物や特色ある景観を紹介した自然観察ガイドブック「まいづるフィールドミュージアム」を活用し、夕潮台公園（春と秋の2回、合計40人参加）で自然観察会を開催。また、8月に水辺の生き物の観察会「川の生き物探検隊」を実施（10人参加）。

▽市内の小学校や公民館において、生物や自然をテーマとした環境学習を実施。

環境学習・環境教育の推進

H17(基準年)	H26	H27	H28	H29		H32(目標)
環境をテーマとした講座等の実施回数(回/年度)						
68	81	94	116	130	➔	100
達成度(%)	81	94	116	130		100
まちの先生の登録者数(団体・人)						
2	7	7	7	6	➔	20
達成度(%)	35	35	35	30		100

● 環境学習の充実、出前講座の拡充

環境に対する意識の向上を目的に、出前型講座など積極的に学習機会の提供に努めています。

平成29年度は、まいづる環境市民会議と連携・協力して、みどりのカーテンを活用した授業など地球温暖化防止に関する講座、ごみ減量など3Rに関する講座及び自然や生き物に関する講座を実施したほか、清掃事務所やリサイクルプラザなどごみ処理施設の見学・説明を行いました。



環境学習(倉梯小学校)

● 自然体験学習の充実

市民団体等が主催する学習会や自然観察会等の取り組みを支援しています。

平成29年度は、まいづる環境市民会議が主催する自然観察会や、舞鶴の川と海を美しくする会が主催するエコウォッチングの支援を行いました。



自然観察(池内川)



エコウォッチング(朝来川)

● まちの先生（生涯学習ボランティアバンク）の利用促進

目標（指標）である「まちの先生（環境・自然観察分野）」の登録者数は、平成29年度には6団体・人となっており、自然観察のガイドなどを指導内容とされています。

利用促進のため、広報まいつるへの掲載やホームページでの紹介、各公民館や図書館、学校や福祉施設等に案内チラシの配布などを行い周知に努めています。

【利用方法】

- ① 「まちの先生」の中から、学びたい分野の先生（登録者）を探します。
 - ② 先生（登録者）へ直接連絡をとり、日時や会場など詳細を打ち合わせます。
- ※詳しくは、市ホームページをご覧ください。

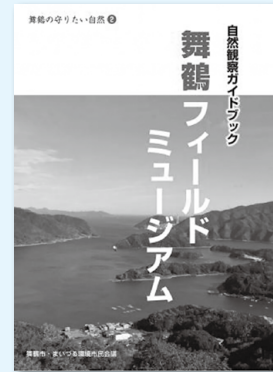
環境情報の提供

● 環境情報の充実

環境白書を毎年発行しているほか、まいつる環境市民会議と舞鶴市により作成した「舞鶴フィールドミュージアム」を販売し、またウェブ版を市ホームページに掲載するなど、様々な冊子やチラシの発行、ホームページなどを通じて、環境情報のわかりやすい発信に努めています。



環境白書

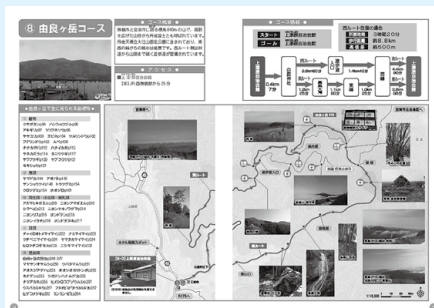


舞鶴フィールドミュージアム

「まいつるフィールドミュージアム」を手に舞鶴の自然観察へ♪

舞鶴に生息する動植物や特色ある景観などを紹介する自然観察ガイドブック「舞鶴フィールドミュージアム」（17歳及び33歳 上記参照）では、実際に屋外のフィールドで自然や動植物に接しながら理解を深めていただくため、9つのモデルコースを掲載しています。青葉山や由良ヶ岳、赤岩山など600m級の山々のほか、伊佐津川や与保呂川、夕潮台公園や神崎海岸など気軽に観察していただけるコースも掲載しています。

御自宅でご覧いただくとともに、舞鶴の素晴らしい自然観察をする際のお供としてぜひお持ちください。



モデルコース掲載ページ（由良ヶ岳）



由良ヶ岳からの眺め

3R 循環型社会を確立し将来に引き継ぐために

3Rとは、リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)の3つのR(アール)の総称です。

- ①一つめのR(リデュース)とは、ごみの発生、資源の消費をもとから減らすこと。 ← 出たごみをどうするかでなく、ごみを出さない工夫を。2Rともいいます。
 - ②二つめのR(リユース)とは、繰り返し使うこと。 ←
 - ③三つめのR(リサイクル)とは、ごみを資源として再利用すること ← 混ぜればごみ、分ければ資源
- ↑ この順序は3Rの優先順位を示しています。

今すぐできる3R

- **必要性の検討** リデュース
購入する前に、もう一度必要か、必要な量はどれくらいかを考えましょう。
特売やセールに惑わされない。また、棚や冷蔵庫の中身の把握など在庫管理も大切。
- **マイバッグ** リデュース
買物の際はマイバッグを持参しレジ袋を辞退しましょう。また、少しの買い物ではシールを貼ってもらい、レジ袋を辞退しましょう。
- **詰替え商品** リユース
シャンプーや文房具などは、できるだけ詰替え商品を使いましょう。
- **リユース食器** リユース
弁当や出前を頼む時など、容器は使い捨てでなくリターナブルなものの活用を。
- **消費期限・賞味期限** リデュース
消費期限と賞味期限を正しく理解しましょう。消費期限は「過ぎたら食べないほうが良い期限」で、賞味期限は「おいしく食べられる期限」のこと。
- **3キリ** リデュース
「食べキリ」「使いキリ」「水キリ」
食べきれぬ量をつくり、食材は使い切りましょう。生ごみはできるだけぬらさず、捨てる前にしっかり水切りを。

- **紙袋を利用した紙の分別** リサイクル
細かい紙や菓子箱などは、紙袋に入れて新聞紙や段ボールを出す時に出しましょう。詳しい出し方や出す場所は、ごみ分別ルールブックを確認を。
- **マイボトル** リデュース
お茶などはやかんで沸かして水筒で持ち歩きましょう。会議などでもペットボトルを並べずにコップで飲める仕組みに。ただし、水分補給はこまめに。

プラスチック循環資源戦略

政府が2019年6月に開催されるG20までに策定
プラスチックの3Rをはじめとする資源循環や
海洋プラスチック対策は世界的な課題(環境大臣)

主な重点戦略「プラスチック資源循環」

- ①リデュース等の徹底
- ②効果的・効率的で持続可能なリサイクル
- ③再生材・バイオプラスチックの利用促進 など

主な重点戦略「海洋プラスチック対策」

- ①犯罪行為であるポイ捨て・不法投棄の撲滅を徹底
清掃活動など陸域での廃棄物適正処理を推進
- ②マイクロプラスチックの流出抑制対策 など

食品ロスの削減

日本全体で年間約646万トンの食品がまだ食べられるのに捨てられています。この量は、国民1人当たり約139g(茶碗一杯分)、世界の食糧援助量(年間約320万トン)の約2倍に匹敵します。

市やまいづる環境市民会議が取り組んでいる3Rの啓発

◆ごみ減量出前授業

小学4年生の清掃事務所やリサイクルプラザの見学にあわせて実施。
ごみの適正処理のほか、紙の分別などでごみの資源化、マイバッグや詰替え商品の利用などでプラスチックごみの削減、3キリなどで食品ロスの削減などを学びます。

◆ごみ減量ワークショップ「買い物ゲーム」

カレーの材料などを買物することで、ごみや環境について考えるゲーム。食品ロスやプラスチックごみの削減のほか、リサイクルのしくみなども学びます。最後に今すぐできる3Rを考えます。

◆おもちゃ交換会「かえっこバザール」

遊ばなくなったおもちゃを持ち込んでポイントに交換し、おもちゃと交換するイベント。物を大切にすることでリユースの大切さを学びます。